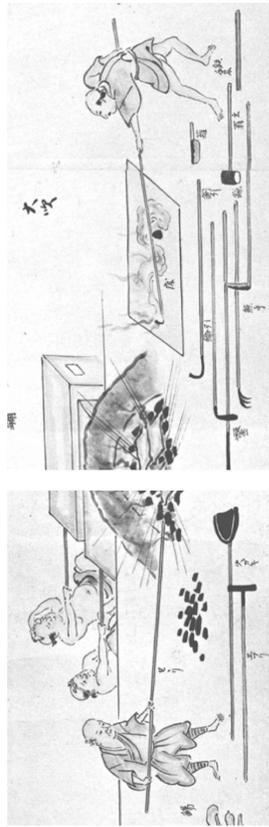


【日本の銭のつくりかた - 『鑄銭図解』（銭座絵巻）にみる鑄銭技術 -】

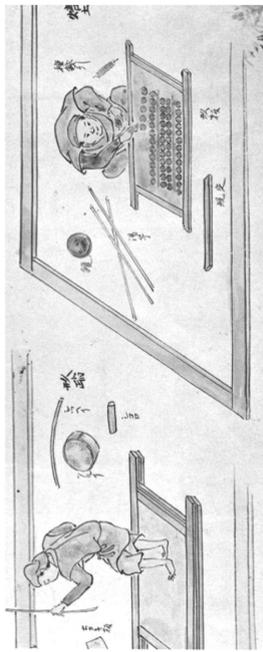
『鑄銭図解』には、江戸時代の銭貨「寛永通宝」をつつくた仙台石巻鑄銭場での作業の様子（18世紀頃）が描かれています。今回は、日本の古代から基本的な変わった銭のつくりかたについて『鑄銭図解』からみていきます。

1 原料づくり



大吹:
銭貨の原料となる銅・鉛などを溶かし、地金をつくります。

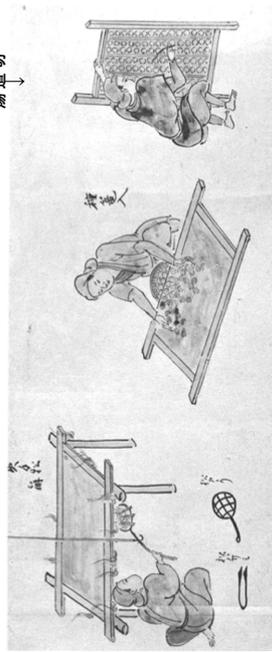
2 銭の鑄型づくり



種銭引:
砂の型に種銭を並べ、鑄型をつくります。

形踏:
種銭をはさみこんだまま表裏の型枠を合わせて踏み固め、種銭や銅を流すための道となる枠を置き、砂の型に写し取ります。

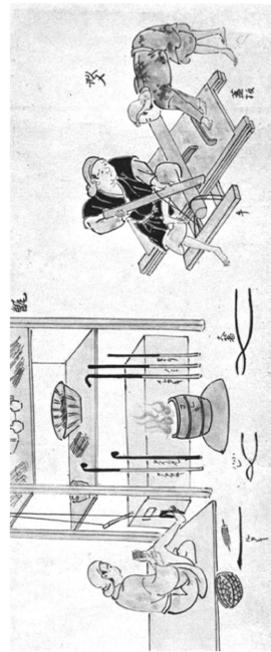
3 銭の鑄型づくり



湯道切:
鑄型に写し取られた銭と枠の間をつなぎ、溶かした銅(湯)が流れる道(湯道)をつくります。

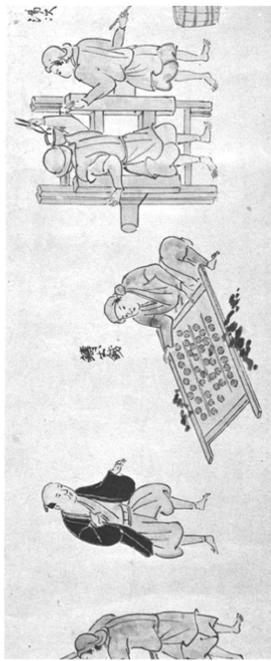
火炙り:
鑄型を松のかがり火であぶります。型のくずれを防ぎ、油煙が表面につくことで型と銭が離れやすくなります。

4 銭の鑄型づくり



形しめ:
鑄型がずれないように表裏を合わせて固定します。

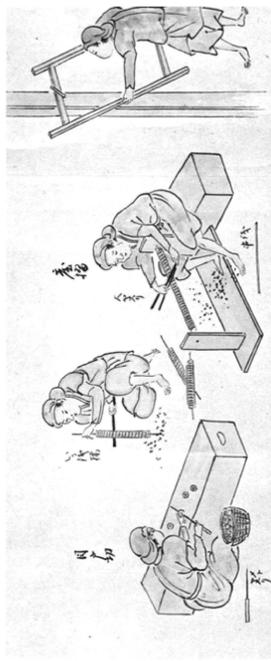
甔(こしき):
鑄型に流すための銅(湯)を溶かしています。



湯つき:
表裏2枚一組の鑄型を立てて固定し、上から溶かした銅を流し込みます。銅は湯道を通って、各鑄型へ流れ、しばらくすると冷えて固まります。

鑄出銭:
鑄型から枝状になった銭貨を取り出しています。

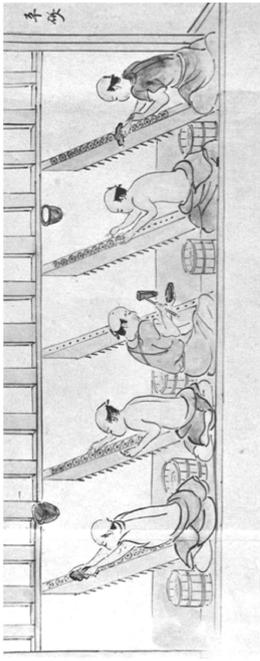
6 銭の仕上げ



台摺:
鑄型から取り出した銭貨の側面を削って形を整えます。

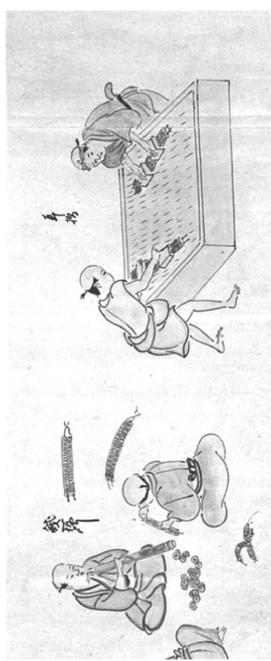
目戸切:
銭貨の中央の穴の部分の鑄バリを削り取り、四角の穴に整えます。

7 銭の仕上げ



平研:
銭貨を並べ、表裏を砥石で磨いて滑らかにします。

8 銭の仕上げ



耳摺:
銭貨の周囲をわらちの中でこすって磨きます。

銭拵所:
網(わらちで作った紐)に銭を通し、「銭拵(せにさし)」をつくります。

* 出典：『鑄銭図解』1923(大正12)年刊行
** ここでは、主な作業工程を示した場面のみを取り上げています。

図3 銭の作り方
(貨幣博物館 2007 年度企画展览展示図録)